

## 災害研職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会を開催しました(2017/5/22)

テーマ：心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）

場所：東北大学クリニカル・スキルスラボ（宮城県仙台市）

2017 年 5 月 22 日(月)、東北大学クリニカル・スキルスラボにおいて東北大学災害科学国際研究所の職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会（第3回）を災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教の企画・運営で開催しました。講師に東北大学総合地域医療研修センターの今井浩之先生（救急救命士）を迎え、同センタースタッフと佐々木助教が講習のサポートを行いました。当研究所からは4名の職員（曽根芳則事務長、小島史樹経理係長、後藤逸人用度係長、此原奈緒総務係員）が受講しました。

今回は本コース初めての取り組みとして、受講前に胸骨圧迫を実施し（プレテスト）、受講後にも胸骨圧迫の出来具合を測定（ポストテスト）し、学習効果を各受講者が数値で確認する、という方法をとりました。プレテスト後、ビデオ視聴で意識状態の確認、119 番通報・AED 搬送依頼、胸骨圧迫・AED 使用の基本を学んだのち、シミュレーターを用いて実技訓練を行いました。シミュレーターには胸骨圧迫の過不足を測定するモニターが装着されており、受講者は自分の胸骨圧迫が十分か否かをモニターで確認することができます。最後に胸骨圧迫のポストテストを行い、自身のスキルアップを数値で確認しました。受講者全員が、受講前よりも胸骨圧迫の技術が上達し、より質の高い胸骨圧迫をできるようになりました。

日本では現在、年間約 7 万人が致死性不整脈で命を落とすといわれています。胸骨圧迫や AED 使用によって、救命につながったケースも多数報告されています。災害研職員同士のみならず災害研を訪問して下さるお客様のためにも、この講習会を継続していきたいと考えています。



アニメ動画で胸骨圧迫・AED 使用の基本を教わる



シミュレーターで胸骨圧迫のトレーニングを行う



2 名で協力しながら胸骨圧迫と AED パッド装着を行う



クリニカル・スキルスラボスタッフと受講者全員

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）